

基肄城

福岡県筑紫野市、
佐賀県三養基郡基山町

大宰府防衛を担った日本最古の朝鮮式山城

「大野及び椽（基肄）二城を築かしむ」と『日本書紀』に記された日本最古の朝鮮式山城。築城は天智天皇四年（六六五）で、前年築城の水城と同じく、二年前の白村江の敗戦を経ての国土防衛線構築の一環であった。水城を挟んで、この基肄城と大野城を結ぶラインが大宰府の外郭を形成していたと考えられる。

標高約四〇五mの基山から東の東峰にかけて大小の谷を囲みながら、約三・九kmの城壁を巡らせていた。城壁の大部分は土塁であったが、谷部には石塁が築かれていた。石塁や水門などからは、古代の優れた土木技術がうかがえる。

1 東北門跡

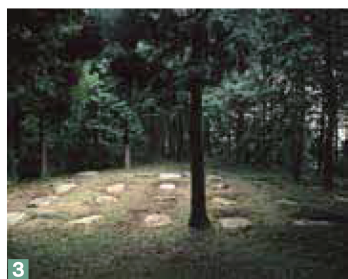
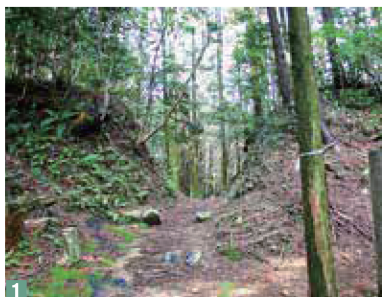
城域の東北部に連なる土塁を幅約2.7m切り割って造られた門跡。

2 南水門跡

南水門は、土塁線が南に開く大きな谷をまたぐために築かれた石垣に設けられた。現在も水が流れ続けている。

3 大礎石群

基山山頂部の東側斜面の平坦部分に立地する。大型の倉庫とも考えられる。



主な遺構
石塁、門跡、鐘撞跡、つつみ跡、土塁線、礎石建物群、いものがんぎなど



別名	椽城
種類	山城(朝鮮式山城)
築城年代	天智天皇4年(665)
築城者	ヤマト政権
主要城主	不明
文化財史跡区分	国指定特別史跡
近年の主な復元・整備	水門跡において、石垣の積み直しを実施
主な関連施設	基山町立図書館郷土資料展示コーナー
スタンプ設置所	基山町民会館

* 追記(備考) / 図書館ではシーズンによっては基肄城出土資料を見ることができない場合がある(基肄城関連書籍は閲覧可能)。